

R-2-1 QI研究の結果還元による 標準治療実施の状況調査

独立行政法人 国立病院機構 千葉医療センター
山口 千春

I | 背景

厚生労働省が掲げる
院内がん登録に期待される効果¹⁾

病院
医療結果の評価、他院との比較 ▶ がん医療の質の向上

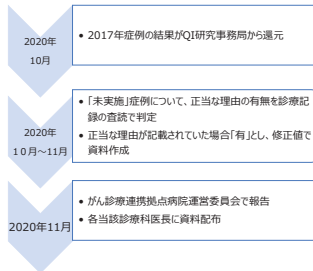
国立研究開発法人国立がん研究センター
情報収集、統計の算出 ▶ 医療機関の実態把握

病院や国立研究開発法人国立がん研究センター
情報公表 ▶ がん患者及びその家族の医療機関の選択

行政
がん医療の分析及び評価 ▶ がん対策の充実

- ▶ 院内がん登録の活用状況について、昨年、実施されたインタビュー調査では、「がん診療の質の向上」へ貢献した例や、「医療経営への活用」の可能性が報告されている²⁾。
- ▶ 当院でも「がん医療の質の向上」を目指し、がん登録データの利用を開始した。
 - * 2017年症例より
 - 都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会
 - がん登録部会QI研究（以下、QI研究）に参加

QI研究の医師への還元の手順



II | 目的

QI研究の結果還元後に医療の質の向上が見られたか否かを検証した。

III | 方法

1. 対象

2017年症例と2021年症例

比較対象を2021年症例とした理由
結果のフィードバックが2020年11月だったため

【選定条件】

- ・胃がんのQI研究項目
- ・2017年,2021年とも当院の該当症例10以上の項目

【除外条件】

- ・2017年,2021年とも100%実施の項目

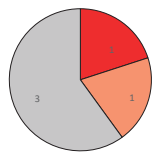
条件に合致したのは5項目であった。

- ・ST6：内視鏡治療後在院日数
- ・ST7：内視鏡治療患者へのピロリ菌検査
- ・ST8：cステージⅡ・Ⅲ胃癌患者への腹腔洗浄細胞診
- ・ST11：外科手術後在院日数
- ・ST13：化学療法前の血液検査

2. 分析方法

検定方法：フィッシャーの正確確率検定
有意水準：0.05
使用システム：SPSS Ver.22

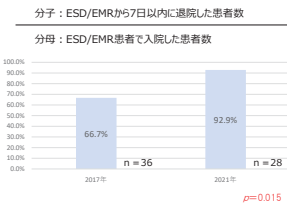
IV | 結果



- 実施率上昇 有意差あり 1項目
- 実施率上昇 有意差なし 1項目
- 実施率はほぼ同じ 3項目

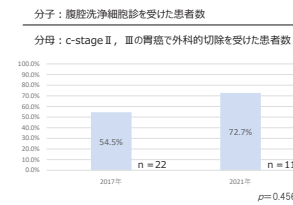
実施率上昇
有意差あり

ST6：内視鏡治療後在院日数



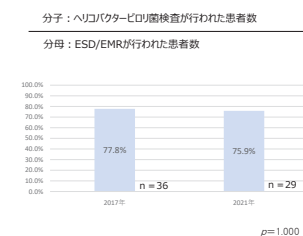
実施率上昇
有意差なし

ST8：cステージⅡ・Ⅲ胃癌患者への腹腔洗浄細胞診

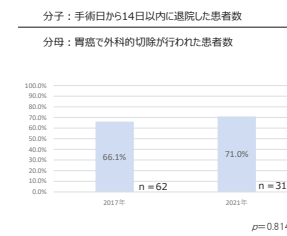


実施率はほぼ同じ

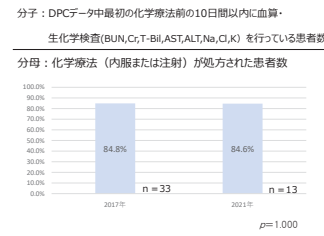
ST7：内視鏡治療患者へのピロリ菌検査



ST11：外科手術後在院日数



ST13：化学療法前の血液検査



V | 考察

- ▶ 内視鏡治療後の在院日数は有意に短縮したが、在院日数検討のためのワーキンググループ発定など他の要素もあり、QI研究の結果還元のみで改善したとは言えない。
- ▶ データにより客観的に状況を示したことは、他の要素との相互作用を生み出している。
- ▶ 胃がん全体としては、他の項目も含め上昇傾向だが、成果は充分とは言えない。

VI | 結論

- ▶ 今回、初めてQI研究に参加し、医師に結果を還元した。
- ▶ 現時点では成果は充分でないが、データを示し標準治療の実施を促すことは重要である。
- ▶ 今後も医療の質の向上に資するデータ作成・分析を行う必要がある。

参考文献

- 1) 厚生労働省.2015.院内がん登録の実施に係る指針.
<https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-10900000-Kenkoukyoku/000108673.pdf>
2022.2.8
- 2) 馬越理子, 奥山純子, 東尚弘. 都道府県や施設での院内がん登録の効果的な活用のための課題に関するインタビュー調査. 認定特定非営利活動法人 日本がん登録協議会,2021,Monograph No.27 12-29

COI開示

日本がん登録協議会 第31回学術集会
筆頭演者名 山口 千春
当演題発表に関し、開示すべきCOIはありません。